



(近江八幡)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 木簡の釈文・内容
9 関係文献

街道遺跡は、東山道沿いの中世集落で、東側の山地からの小河川による扇状地性低地に立地する。現在までに二六ヵ所の発掘調査により一二一~一五世紀頃の屋敷地、鍛冶工房などの遺構が検出され、箸や桶などの木製品が多く出土した。

今回の発掘調査は第二七次にあたり、市道拡幅工事に伴うものである。幅三m長さ一八〇mの細長い調査区を設定し、柱列や溝・土

滋賀・街道遺跡

所在地 滋賀県野洲市大篠原字出口
調査期間 二〇〇六年（平18）一〇月～一一月
発掘機関 野洲市教育委員会
調査担当者 杉本源造

6 遺跡の年代 鎌倉時代～戦国時代
5 遺跡の種類 集落跡
4 調査担当者 杉本源造

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

街道遺跡は、東山道沿いの中世集落で、東側の山地からの小河川による扇状地性低地に立地する。現在までに二六ヵ所の発掘調査に

上端部は山形に整形する。下部は欠失。表面には呪符木簡独特の文字が書かれ、裏面には肉眼で「中」と読める文字が確認できる。

（1） 「(符籙)

野洲市教育委員会 『平成一八年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書二』（二〇〇八年）

（杉本源造）

（156）×35×4 019

